

腸管出血性大腸菌（^{オー}O157）感染症患者の発生について

1. 患者の状況

- ・患者 高岡厚生センター管内 男性（70歳代）
- ・経緯 8月15日（水）腹痛、下痢、血便
8月16日（木）医療機関を受診、入院、検便実施
8月17日（金）医療機関にて腸管出血性大腸菌 O157（VT1）検出
腸管出血性大腸菌感染症と診断
- ・症状 現在、快復している

2. 患者及び感染源調査

- ・患者の喫食状況調査及び行動調査を実施
- ・患者家族等接触者の健康状況調査を実施

3. 対応

- ・患者自宅等の消毒を指示
- ・患者及び患者家族等に対し、衛生教育を実施

4. 予防対策の周知をお願いします

- ・調理の際、食事の際、トイレの後など手洗い消毒を徹底しましょう
動物とふれあった後にも、必ず石けんを使用して十分に手洗いをしましょう
- ・肉類や加熱する食品は十分に加熱しましょう
特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう
※生食用の牛レバーは提供・販売されていません。
- ・生野菜は流水でよく洗いましょう
- ・調理器具を使い分けましょう
生肉が触れたまな板、包丁、食器等は、生野菜や加熱済み食品を汚染しないよう、
十分洗浄消毒してから使いましょう
※焼肉やバーベキューを楽しまれる場合は、生肉専用の箸やトングを使用し、食
べる際の箸と使い分けをしましょう

■下痢等の症状がある場合は、速やかに医療機関を受診し医師の診察を受けましょう

5. 参考	（平成30年）	（平成29年：同時期）
(1) O157	7名（本事例を含む）	10名
(2) O26	9名	7名
(3) O111	2名	0名
(4) O128	2名	0名
(5) O118	1名	0名
(6) O91	0名	3名

【報道機関各位へお願い】

報道に際しては、患者様御本人及び御家族のプライバシーに十分な御配慮をお願い致します。